

# 回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

## メーカーのあれこれ

スロットを初めて30年以上が経過しました。もしかして人生の15分の1くらいはパチンコ店にいるのではないかと、ふと考えてゾッとしました。

この30年の間にいろんな思い出の台ができましたが、幾多のパチスロメーカーにも多様な思い出や思い入れがあります。

私が初めてスロットに出会ったのは4号機時代で、3号機もチラホラ置いてあるような時代でした。当然ながら打ち始めた当初は、メーカーなどの意識はなく、何にも考えていなかったと思います。それがいつの間にか、やれ個々のメーカーは操作性が悪い、リールが見にくい、エラー多い、など多数の特徴が見えてきました。今となつてはこのメーカーも性能良く作られていて、それほど意識はしなくなりましたが、いまだに特徴は残っているの、それぞれのメーカーを個人的な独断と偏見をふんだんに取り入れて語つていこうと思います。

### ①サミー

今となつては業界の代表と言ってもよいメーカーになっていて、基本的にどの機種も細部までしっかり考えられており、まさに業界のトヨタと言つてもよいでしょう。ただ、今でさえトップ企業ですが、30年前はそうではなかったのです。

思い出の機種としては「505(ファイフteeズ)」。リールは小さい、回り方はいびつ、ボタン小さい、ベットボタンは右。なんだかんだでよくわからないままに打っていました。当時は楽しかったですね。ちなみに設定1の機械割は91%です。今なら怒られますね。

翌年には筐体が一新されてかなり性能が良くなりました。ボタンの周りが光つたり、リールも大きくなって、ベットボタンも左に。この筐体の最終機種が、私の中の名機上位にランクインしている「玉緒でボンDX」ですね。設定変更するとベットランプが全消灯するので、対策の甘い店舗では、入店して変更、据え置きが一目でわかってしまうという筐体でした。そして次に刷新された筐体が、初代ディスクアップのあの筐体です。操作性や使い心地は申し分なく、かなりの好印象の筐体でした。ただ、あの大きな引き起こした筐体でもありません。超強力攻略法「コビー打法」が可能な筐体だったのです。この筐体が使われていた全ての機種でコビー可能で、早期に気づいていた方々はかなりのリターンがあったのでしよう。私はダブルチャレンジでATコビーをちよこつとね笑

次の筐体はかなり長く使われていて、初代北斗からつい最近まで使われていました(マイナーチェンジは除く)ボタンの押しやすさから、リールバランス、いろいろな面で個人的に筐体の最高金賞を授

与しますね。

ソフト面においても多々の革新的な機能を生み出しました。今では当たり前前のAT(アシストタイム)もサミーのゲゲの鬼太郎SPが最初で、三重にスロットが導入された2000年の発売だったのでご存じの方もいるかと思いますが、他にも獣王のスカスカリールとか、中断チェリーの重要性もサミー(北斗)のおかげと言ってもよいでしょう。何かとサミー量販ですが、やっぱり安心感がありますよね。ちなみに「サミー」という名称、生みの親である「里見さん」からきています。



ゲゲの鬼太郎SP(2000年)

### ②山佐

山佐と言えばカエルですね。あとはユニバーサルですね。この2つが有名すぎてパルサーⅡカエルのように勘違いしている方も見えますが、実は違っていて、ビッグパルサーという機種にはカエルはなくて、ニュービッグパルサーなんかはスイカがB I G絵柄でした。カエルが登場したのは初代ニューパルサーが最初

で、緑の絵柄を色々考えていて生み出されたとか。ではパルサーとは、何なのか? 当時のうわさでは社長が日産パルサーという車に乗っていたから、とか言われていますが真偽は不明です。

ニューパルサーがスロット界の大御所であるのは、あまりに有名ですが、この山佐というメーカー自体も大御所と言つてもよいでしょう。先に紹介したサミーよりも大御所感が強く、業界初を地味ながら多々生み出しています。パウンドストップや0ゲーム連(いわば疑似遊技)、リールロックや4thリール搭載、など様々な演出を開発していますが、本家が山佐なんて誰も気づかないでしょう。あの有名な「下段チェリー7」通称ゲ Cheneyも山佐のニューパルが元祖だったと思います。

筐体に関しては、初期のころは悲惨でした。初代ニューパルなんて、メダルは投入しにくいし、うまく入れないとすぐにエラー出るし、ボタンが効かなくなることも多かったし、見た目はレトロな雰囲気が出ていてかつこよかったけど、お世辞にも扱いやすかったとは言えませんが、あと、リールの止まり方が特徴的で、ほかのどのメーカーよりもカチッと止まる感がありますね。古い機種なんて、毎回パウンドストップしてる感じでしたね。

サウンドも今ではどのメーカーも美しい音だと思いますが、山佐は昔から音

質が良かったと思います。ボーナス中の音楽やスタート音、ファンファーレ、ストップ音、全ての音で気分的にも煽られていましたね。

なにかと革新的で革命的な山佐さん、これからもスロット界を盛り上げていってほしいですね。



ビッグパルサー(1989年)



ニューパルサー(1993年)

### ③ユニバーサル

サミーに並ぶ回胴界の二大巨頭の一角。あの手この手で販売数を伸ばし、勢力を拡大してきた。そのやり口がちょっとアレなので、訴訟やトラブルが多い印象。それでも名機は非常に多くて、特に昔の旧ユニバ時代のものには革命的でした。その代表作が「克蘭キーコンドル」です。いわゆる技術介入時代の先駆者

であり、その効果を実感させた革新的な機種でした。操作性について、当時は何も思いませんでしたが、今ならとても遊技しにくいでしょう。ボタンが小さすぎるし、マックスベットボタンもない。でもね、この初代コンドルの筐体、当時としては革新的な仕様があって、それがメダル補給用の扉が、番上についていたのです。今では自動補給だから関係ないですけど、手補給の当時としては便利だったと思います。

その後、得意のいざこざからなのか、社名変更し「アルゼ」に。アルゼはやるぜ! とか言っていましたね。そしてこの頃から、ユニバ系の機種がつまらなくなっていました。社名変更後、まもなく発売された「レインボークエスト」。ユニバ最初の7ライン機で、右リール枠上、枠下が有効ラインとなっていて、かなりの違和感でした。見るころが多すぎて、なんかやりにくかったし、面倒でした。結果、まったく面白くありませんでした。5ラインでは237分の1のB I G確率まででしたが、7ラインにするこ

とで揃いやすくなるということから、B I G確率を大幅に上げることができたのが利点というだけで、それ以外は良いとこなしでした。基本的には技術介入機をたくさん出していたので、アルゼに座つとけば間違いないなどとはありましたね。ライバルのサミーもこのころは全く人気な



克蘭キーコンドル(1995年)



レインボークエスト(1998年)

その他のメーカーは来月号にて!